

集団決定と講義の行動変化に及ぼす効果の比較*

	牧 田 稔	都 立 大 学 中 村 陽 一
	高 月 東 一	東 京 大 学 池 内 一
輿論科学協会	斎 藤 定 良	お茶水女子大学 岡 部 慶 三
	岡 本 淑 人	水 原 泰 介

人々に新しい行動様式をうえつけるのに、講義による新行動様式の推奨と、集団討議による新行動様式採用の決定との兩者のうちで何れが効果が大きいかを比較する研究は、教育効果を上げるという実用的見地からは勿論のこと、集団過程と個人心理の接触面に於ける心理学的基本問題の解明に手掛りを与えるものであるという点に於て重視されている。即ち、行動を変えるという要請を受入れること、社会的基準を維持或は変化することへの集団場面の影響、実行と motivation との関係等が問題になるのである。

米国に於ける幾つかの実験的研究の結果は、講義よりも集団決定の方が行動様式を変えさせるのに効果が大であることを示している。

我々はこれ等の実験の追試として“赤痢予防のために石鹸で手を洗う。”事を実行させるといふ場合を取り上げ、果して講義形式よりも集団討議の形式の方が有効であるか否かを実験的に究明する事を試みた。

即ち赤痢の流行期を控え、「手洗い」特に「石鹸で手を洗うこと」を励行させようとする場合、講義を行う事によつて「手洗い」の主旨を徹底させた被験者群と、討議形式によつて被験者各自が「手洗い」の実行に関する集団決定に参加した被験者群とを比較すると、そのどち

らが一層よく「手洗い」を実行に移すかを検討する。

実験手続

この実験は昭和27年6月～7月の赤痢の流行期に際して、特に赤痢の集団発生の際のある寮生活を行つているものを対象とする意味で東京都内の某女子大学の寄宿寮生を用いて行われた。

一つの寮に寮生約15名前後を収容している寮のみ14寮を選び、実験群7寮105名、対象群7寮83名を対象とした。実験群は更に討議群4寮50名、講義群3寮55名に夫々分れる。

実験に先立つて全被験者は、ひとしく16問よりなる(表I)の如き質問紙を以つて、「手洗い」の現在実行している程度を回答せしめられた。

手洗い実行状況調査(第一回)

次の事柄についてあなたが現在行っている実状をありのままに、答えて下さい。(答は○で囲みます。)

- ① 電車にのつた後、手を洗いますか。
 - (A) (イ)必ず洗う。(ロ)大体洗う。(ハ)洗う時も洗わない時もある。(ニ)たまにしか洗わない。(ホ)全く洗わない。
 - (B) その時には石鹸を使いますか。
 - (イ)必ず石鹸を使う。(ロ)大体石鹸を使う。(ハ)石鹸を使う時も使わない時もある。(ニ)たまにしか石鹸を使わない。

(以下各問同じ)

- ② 洗濯の後、きれいな水で手を洗いますか。
 - (A) (B)
- ③ 配膳の前、手を洗いますか。
 - (A) (B)
- ④ 外出して帰つた時、手を洗いますか。
 - (A) (B)

* Comparative Study on Lecture and Group Decision in emotirating a desired Behaviour.

** by Makita, Minoru (Yoron Kuyakn Kyokai)
Kozuki, Toichi (Yoron Kagakn Kyokai)
Saito, Teiryō (Yoron Kagakn Kyokai)
Okamoto, Yoshito (Yoron Kagakn Kyokai)
Nakamura, Yoichi (Toriton University)
Ikeuchi, Hajime (University of Tokyo)
Okabe, Keizo (Ochanomizu Women's College)
Mizuhara, Taisuke (Ochanomizu Women's College)

- ⑤ 裁縫した後、手を洗いますか。
(A) (B)
- ⑥ 雑巾掛け掃除の後、手を洗いますか。
(A) (B)
- ⑦ 食事の前に手を洗いますか。
(A) (B)
- ⑧ 図書館で本を見た後、手を洗いますか。
(A) (B)
- ⑨ 料理をする前には手を洗いますか。
(A) (B)
- ⑩ 古本屋で本を扱った後、手を洗いますか。
(A) (B)
- ⑪ 喫茶店、食堂へ入った時、手を洗いますか。
(A) (B)
- ⑫ 料理をする前、フキンを洗う石鹸と、手を洗う石鹸とは区別しますか。
(イ)必ず区別する。(ロ)大体区別する。(ハ)区別する時も、しない時もある。(ニ)余り区別しない。(ホ)全く区別しない。
- ⑬ 訪問して食事を出された時、手を洗いますか。
(A) (B)
- ⑭ 御手洗から出て手を洗う時、石鹸を使いますか。
(B)
- ⑮ 公衆電話をかけた後、手を洗いますか。
(A) (B)
- ⑯ お金を勘定した後、手を洗いますか。
(A) (B)

上述 16 問の内、質問 12 及び 14 を除いては、他のいずれも A, B の 2 問より構成され、A 形式の質問は一般に手を洗うことについて、B 形式の質問は更に一層丁寧に石鹸を用いて手を洗うことについて、様々な事態における実行の現状を問うたものである。被験者はこれらについて夫々 5 段階の程度をもつて答えうるように構成されている。質問 12 及び 14 は A 形式を問い得ない場合、及び A 形式は問うまでもない場合であるため、B 形式或は B 形式に類似の質問のみが提出されている。

質問紙に対する回答の記入は全員集合して同時に行われたが、相互に相談或は話し合いをする事は禁ぜられた。

調査の回答は無記名で行われたが、後の調査との個人の対応をつける為に、全被験者に alphabet と数字の組合わされた。例えば、A-2 といったように符号の記入されたカードを夫々配布し、夫々自己の受けとつたその符号を調査表に記入せしめ、後に再びこのような調査のある場合は、同じ番号を必ず記憶して夫々記入する

ようにとの注意をあたえておいた。

尙、質問紙の記入に際しては「この調査は社会調査の方法を研究する為に行うものであり、衛生の実態調査を直接の目的としているのではないから、卒直にありのままを答えて欲しい」と称し、後の実験と、この調査とを関連づけられる事をいくらかでも防止する意味で、調査の真の意図は秘匿しておいた。

質問紙による調査の二日後に、実験群に対しては講義或は討議が課せられた。

実験群のうち、講義群には 3 ヶの寮が当てられたのであるが、講義は各寮別に行われ、各寮とも寮生全員が参加したのではなく、寮生中より互選された代表 10 名のみが講義を聞いた。従つて講義に直接参加した寮生の全数は 30 名である。講義は 3 寮とも、同一の講師が同一の草稿に基いて各寮別々に実施した。草稿は、「赤痢の流行期を控え、集団生活をする寮のような場所では特に集団発生の惧れがある。これの発生を防ぐには何よりも簡単に実行可能な方法として『手洗い』の励行が第一に考えられる。手洗いも溜り水で簡単に手を洗うだけでは有効とはいえない。石鹸を用いて、流水で丁寧に洗うならば、クレゾール消毒液を用いた場合と、略々同程度に有効な予防となるので寮生各位は石鹸を用い、手を丁寧に洗うよう極力努めていただきたい。この事は只特定の人だけが励行しただけでは充分の効果を期待出来ないであつて、聴講生各位は之の励行を貴女達の寮の寮生全員に伝達し、寮生が相互に注意し合つて実行に心がけて下さる様おすすめる」というような主旨である。尙、この際豊富な事例をあげ具体的な方法について説明し、ポスター等を用いる。講義所要時間は 1 回につき約 40 分である。

討議群は 4 寮が用いられたが、講義と同様に各寮から 10 名ずつの代表が選出され、各寮別にこの 10 名が討議を行つた。討議の形式は、まず実験者が、「赤痢流行期に近づいて、是非ともその対策を講じなくてはならないが、その対策のうち寮生各位が自分達の心掛け次第で簡単に実行しうるような予防法を考え、更にそれを実行するにはどのような方法をとる事が効果的であるかを決めていただきたい」との教示をあたえ、その後被験者の内から司会者を互選で決めさせて討議を行かせた。討議の推移のうちには実験者はなるべく発言を控え、時折「手洗いの励行」という結論に至る進行を促したり、その障壁となるものを除いたりするような助言をあたえる程度に止め、結論の選択決定はすべて討議に参加する成員の自発的意志によつて行われるようにした。

討議の所要時間は寮によつて 15 分乃至 40 分の巾を

もつた。4寮の討論の結論はいずれも手洗いの励行に関する具体的な方法ばかりであつた。尙、実験者は討議参加者に対して決議せられた実行要目を討議に直接参加していない寮生全員に伝達するように要請した。

討議及び講義の終了後に、参加者に討議或は講義の過程についての感想・結論の実行化に対する意欲等についての内観報告を求めた。

実験終了後 10 日を経てから再び「手洗い」の実行の現状に関する調査を質問紙をもつて行つた。調査を前の場合と同じく、実験群、対照群の全員に対して同時に行つた。質問紙の内容は実験実施前に行つた調査に用いた 16 問の内から回答における個人的偏差の巾が特に狭かつたもの 4 問、即ち問の 1, 2, 13, 15, を除いた 12 問に加えて新たに衛生に関する 13 問の質問を加え、計 25 問からなり、その問題の配列は前の場合と全く異つたものとした。質問項目は(表 2)の通りである。このような操作を用いたのは、今回の調査が前回のそれと同一のものであるという印象を被験者達にあたえないようにする配慮からであつた。質問の形式は殆んどが A, B 二つの形式からなつている事は前回と同様である。

質問紙の記入に際しては前回と同じく、社会調査法の方法の研究をすと称して記入を求め、無記名とし、前回の調査に際して配布した符号を記入せしめた。

これを要するに実験手続としては上述の如く、実験群は全員実験前の質問紙調査を受け、二日後に各寮の 10 名ずつの代表が夫々講義或いは討議による実験に参加し、この参加者によつて直接には実験に参加しなかつた残りの寮生に討議の結論、或は講義の内容が伝達される過程が存在し、実験後十日を経て再度質問紙調査を受けた事になる。対照群の全員は前後 2 回の質問紙による調査を受けたのみで、講義や討議には参加せず、また講義や討議の内容・結論等について何等の伝達も受けていない。

手洗い実行状況調査(第 2 回)

次の事柄についてあなたが現在行つている実状をありのままに、答えて下さい。(答は○で囲みます。)

- ① あなたは天気の良い日には必ずふとんをほすことにしますか。
(イ) 天気の良い日は必ずほす。(ロ) 出来る丈ほす。
(ハ) 時々ほしている。(ニ) あまりほさない。(ホ) めつたにほさない。
- ② 図書館で本を見た後、手を洗いますか。
(A) (イ) 必ず洗う。(ロ) 大体洗う。(ハ) 洗う時も洗わぬ時もある。(ニ) たまにしか洗わない。(ホ) 全く洗わない。
- (B) その時には石鹸を使いますか。
(イ) 必ず石鹸を使う。(ロ) 大体石鹸を使う。(ハ) 石鹸を使う時も使わぬ時もある。(ニ) たまにしか石鹸を使わない。(ホ) 全然石鹸を使わない。
- ③ あなたは箸箱を洗いますか。
(イ) 毎日必ず洗う。(ロ) 大体毎日洗う。(ハ) 二・三日に一度は洗う。(ニ) 一週に一度は洗う。(ホ) 一ヶ月に一度は洗う。
- ④ あなたは白菜やキャベツを生で食べるような場合、どうしますか。
(イ) 一枚一枚はがしてよくこすつて洗う。(ロ) 一枚一枚はがしてぎつと洗う。(ハ) よく洗うが一枚一枚はがすことはしない。(ニ) ぎつと洗う。(ホ) 汚れた所だけはがしてそのまま食べる。
- ⑤ 食事の前に手を洗いますか。
(A) (B)
- ⑥ 少しでも下痢をしたような場合、あなたは医者にももらいますか。
(イ) 必ずみてもらう。(ロ) 大体の場合みてもらう。
(ハ) 時々みてもらう。(ニ) あまりみてもらわない。
(ホ) 殆んどみてもらわない。
- ⑦ 古本屋で本を扱つた後、手を洗いますか。
(A) (B)
- ⑧ 手をふくためのハンカチをどの位でかえますか。
(イ) 毎日必ずかえる。(ロ) 大体毎日かえる。(ハ) 二・三日に一度は必ずかえる。(ニ) 一週に一度は必ずかえる。(ホ) 大体一週間に一度はかえる。
- ⑨ 料理をする前には手を洗いますか。
(A) (B)
- ⑩ 少しでも熱がある様な場合、あなたは医者にももらいますか。
(イ) 必ずみてもらう。(ロ) 大抵の場合みてもらう。
(ハ) 時々みてもらう。(ニ) あまりみてもらわない。
(ホ) ほとんどみてもらわない。
- ⑪ お金を勘定した後で手を洗いますか。
(A) (B)
- ⑫ 配膳の前、手を洗いますか。
(A) (B)
- ⑬ あなたは生水をのむことがありますか。
(イ) しばしばのむ。(ロ) 時々のみ。(ハ) あまりのまない。(ニ) 殆んどのまない。(ホ) 絶対のまない。
- ⑭ 雑巾がけの後、きれいな水で手を洗いますか。
(A) (B)
- ⑮ もし食物の上にはえが止つたら、その食物をあなたは捨てますか。

- (イ)必ず捨てる。(ロ)大抵捨てる。(ハ)時々捨てる。
- (ニ)あまり捨てない。(ホ)殆んど捨てない。

実験の結果

- ⑩ 外出して帰った時、手を洗いますか。
(A) (B)
- ⑪ あなたは町で飲食することがありますか。
(イ)しばしばある。(ロ)時々ある。(ハ)あまりない。
(ニ)殆んどない。(ホ)絶対ない。
- ⑫ あなたは肌着をどの位かえますか。
(イ)毎日必ずかえる。(ロ)大抵毎日かえる。(ハ)二・三日に一度は必ずかえる。(ニ)一週に一度は必ずかえる。(ホ)大体一週に一度はかえる。
- ⑬ お手洗から出て手を洗う時、石鹼を使いますか。
(B)
- ⑭ あなたは掃除をする時、マスクをしますか。
(イ)必ずする。(ロ)大体する。(ハ)時々する。(ニ)あまりしない。(ホ)殆んどしない。
- ⑮ 料理をする前、ふきんを洗う石鹼と手を洗う石鹼とを区別しますか。
(イ)必ず区別する。(ロ)大体区別する。(ハ)区別する時もしない時もある。(ニ)あまり区別しない。(ホ)全く区別しない。
- ⑯ 食後あなたは箸を水道の水で洗いますか。
(イ)必ず洗う。(ロ)大抵洗う。(ハ)時々洗う。(ニ)あまり洗わない。(ホ)殆んど洗わない。
- ⑰ 裁縫した後で手を洗いますか。
(A) (B)
- ⑱ あなたは何日に一度位の割合で、お風呂に入りますか。
(イ)毎日必ず入る。(ロ)毎日大体入る。(ハ)二・三日に一度は必ず入る。(ニ)週に一度は必ず入る。(ホ)大体一週に一度は入る。
- ⑲ 洗濯の後、きれいな水で手を洗いますか。
(A) (B)

結果の整理は討議群と、講義群と、討議や講義に全然関与しなかつたところの対照群との三群について、最初の質問紙により調査された「手洗い」及び「石鹼を用いての手洗い」についての実行度と、後に行なわれた調査に現われた実行度とを比較し、その変化を検討した。ここで謂う変化とは各群に属する個々人の2回の調査に於ける変化であるから、先ず質問紙に記載された各被験者の符号によつて両調査に於ける各個人の回答の対応をつけなくてはならない。更に或る事態に於ける手洗いの状況を討議或は講義の挿入の前後に亘つて検討するのであるから、2回の調査に用いられた質問紙の両方に含まれる質問12問に対する反応のみを検討することになる。

各質問がA, B, 二つの形式からなり、それらは種々な事態に於ける「手洗い」或は「石鹼を用いての手洗い」を現在実行している状況について5段階の程度をもつて応答しうるように構成されていることは既述の通りであるが、被験者が或る事態に於ける手洗いの状況を最初の調査では或る段階をもつて答え、後の調査ではこれと異つた段階で答えたならば、手洗いの実行度に変化があつたことを示すものと考えてよいであろう。この場合後の調査で最初と比べて一層高い実行度の段階が選ばれていたならば、その変化は“+”逆に低い段階が選ばれておればその変化は“-”と考える。このようにして或る事態に於ける手洗いの状況が2回目の調査で“+”に変化したものと、変化なきものと、“-”に変化したものと人数を各条件別の群毎に算出して、百分率を出す。

このような操作を12問の質問項目のA, B, 両形式(但しこの12問中2題はB形式のみしかない)計22ヶの質問について各条件群(対照群C, 講義群L, 討議群D)毎に行つた結果は(表1)に示された通りである。

Table 1

A 手を洗うか

	N	洗 濯			配 膳			食 事			図 書 館			お 金		
		+	0	-	+	0	-	+	0	-	+	0	-	+	0	-
D	50	14.0	76.0	10.0	28.0	62.0	10.0	42.0	54.0	4.0	22.0	44.0	34.0	54.0	38.0	8.0
L	55	10.9	74.4	14.7	21.8	50.9	27.3	32.7	54.5	12.8	36.4	34.5	29.1	47.3	34.5	18.2
C	83	7.2	80.7	12.1	15.7	66.2	18.1	25.3	63.9	10.8	32.5	42.2	25.3	43.4	32.5	24.1

(数字は百分比を示す)

	N	外出			裁縫			雑巾がけ			料理			古本屋		
		+	0	-	+	0	-	+	0	-	+	0	-	+	0	-
D	50	30.0	60.0	10.0	44.0	44.0	12.0	2.0	98.0	0.0	2.0	90.0	8.0	14.0	58.0	23.0
L	55	30.9	52.7	16.4	49.1	29.1	21.8	3.6	92.8	3.6	3.6	96.4	0.0	29.1	36.4	34.5
C	83	18.1	68.6	13.3	39.8	42.1	18.1	0.0	97.6	2.4	7.2	91.6	1.2	24.1	55.4	20.5

B 石鹸で手を洗うか

	N	洗濯			配膳			食事			図書館			お手洗			お金		
		+	0	-	+	0	-	+	0	-	+	0	-	+	0	-	+	0	-
D	50	38.0	48.0	14.0	92.0	18.0	10.0	62.0	32.0	6.0	28.0	44.0	28.0	68.0	26.0	6.0	40.0	44.0	16.0
L	55	40.0	29.1	30.7	43.6	36.4	20.0	56.4	30.9	12.7	41.9	34.9	23.6	80.0	18.2	1.8	56.3	27.3	16.4
C	83	34.9	45.8	19.3	32.5	38.6	28.9	34.9	41.0	24.0	36.1	43.4	20.5	56.6	30.1	13.3	49.4	30.1	20.5

	N	外出			裁縫			雑巾がけ			料理			古本屋			ふきん		
		+	0	-	+	0	-	+	0	-	+	0	-	+	0	-	+	0	-
D	50	48.0	46.0	6.0	46.0	40.0	14.0	44.0	40.0	16.0	54.0	30.0	16.0	28.0	42.0	30.0	42.0	48.0	10.0
L	55	30.9	32.7	36.4	61.8	27.3	10.9	25.5	45.4	29.1	38.2	50.9	10.9	29.1	27.3	43.6	49.1	36.4	14.5
C	83	27.7	48.2	24.1	41.0	39.7	19.3	16.9	60.2	22.9	32.5	43.4	24.1	26.5	53.0	20.5	10.8	67.5	21.7

この“+” “0” “-”の百分率を各質問について三群間の差を検定してみると次表のような差がみられる。

Table 2

1. 討議群と講義群との比較

質問	形式	実行度の増大	P
配膳	B	討議群>講義群	0.01
雑巾がけ	B	〃	0.05

2. 討議群と対照群との比較

質問	形式	実行度の増大	P
食事	A	討議群>対照群	0.05
配膳	B	〃	0.01
食事	B	〃	0.01
外出	B	〃	0.01
雑巾がけ	B	〃	0.01
料理	B	〃	0.01
ふきん	B	〃	0.01

3. 講義群と対象群との比較

質問	形式	実行度の増大	P
手洗い	B	講義群>対象群	0.01
裁縫	B	〃	0.01
ふきん	B	〃	0.01

以上の結果は各種条件別による寮生全員の結果であり、これらの寮生には討議或は講義に直接参加した代表者と、残りの寮生とを含めたものである。そこで次に、代表者と残りの寮生とを分けて、夫々別々に上述のような百分率の差の検定を行つてみると次のようになる。

Table 3

1. 討議群(代表者)と講義群(代表者)との比較

質問	形式	実行度の増大	P
外出	B	討議群>講義群	0.05
配膳	B	〃	0.01

2. 討議群(代表者)と対照群との比較

質問	形式	実行度の増大	P
配膳	A	討議群>対照群	0.05
食事	A	〃	0.02
外出	B	〃	0.01
雑巾がけ	B	〃	0.01
手洗い	B	〃	0.05
配膳	B	〃	0.01
食事	B	〃	0.02
ふきん	B	〃	0.01

3. 講義群（代表者）と対照群との比較

質 問	形式	実行度の増大	P
外出 ふ き ん	A	講義群>対照群	0.05
	B	〃	0.01

4. 講義群（講義を聴かない寮生）と討議群（討議に参加しない寮生）との比較

質 問	形式	実行度の増大	P
図書館 配 膳	A	講義群>討議群	0.05
	B	講義群<討議群	0.05

5. 討議群（討議に参加しない寮生）と対照群との比較

質 問	形式	実行度の増大	P
雑巾がけ 手 洗 い	B	討議群>対照群	0.05
	B	〃	0.02
配 膳 食 事	B	〃	0.01
	B	〃	0.02
料 理 ふ き ん	B	〃	0.01
	B	〃	0.01

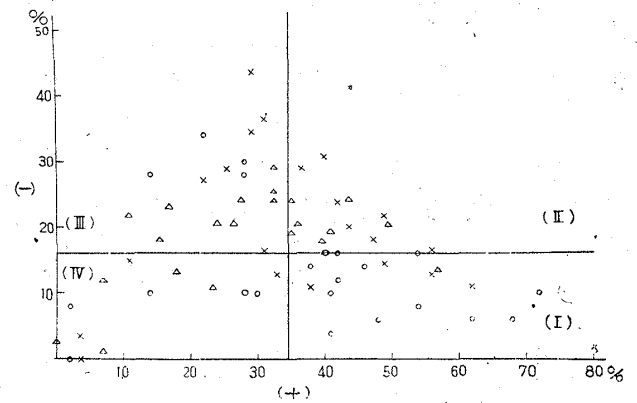
6. 講義群（講義を聴かない寮生）と対照群との比較

質 問	形式	実行度の増大	P
裁 縫 食 事	B	講義群>対照群	0.05
	B	〃	0.02
ふ き ん	B	〃	0.01

以上は各質問毎に討議群、講義群、対照群の間の差を検定したのであるが、次に、これ等の質問全部をひつくるめて三つの群を比較してみようと思う。このために、各質問毎に算出された百分比について、変化なきものは除き、“+”のものとして“−”のものについて次の如き操作を行う。即ち別図の（図1）の如く、各群別々に各質問毎に横軸に“+”の百分比、縦軸に“−”の百分比をとる。質問数は22であり、比較すべき群は3であるから $22 \times 3 = 66$ の点が得られる。次に66ケの“+”の百分比及び66ケの“−”の百分比の夫々の Median を通過する。座標軸に平行な直線でもつて平面をきれば、4つの領域に分れる。この4つの領域の中、“+”の値が大で“−”の値が小である領域をI、“+”“−”ともに大である領域をII、“+”が小で“−”が大であるものをIII、“+”“−”共に小なる領域をIVとする。

Iの領域には後の調査で実行度の高くなつた者が比較

Fig 1



的多く、低下したものが比較的少かつた質問（行動領域）が入り、IIIの領域にはその逆の傾向の質問（行動領域）が入ることになる。このようにして各領域に落ちた点の数を各群毎に見るならば表4の如くである。

Table 4

寮生全員 (A+B)

領域	群別	討議群	講義群	対照群
I		13	5	1
II		0	7	7
III		4	6	5
IV		5	4	9

ここで領域Iと他の3つの領域の計とを比較すると（表5）の如くなり、討議群と対照群との間に1%以下の危険率で有意の差が認められる。即ち討議群に於て対照群に比しIの領域に落ちる割合が多いといえる。

Table 5

寮生全員 (A+B)

領域	群別	討議群	講義群	対照群
I		13	5	1
II+III+IV		9	17	21
討議群>講義群		P<0.05		
討議群>対照群		P<0.01		

又、討議群と講義群とを比較すると、討議群の方が、Iの領域に落ちる割合が多いといえる。（ $P<0.05$ ）

以上と同様の操作を「手洗い」と「石鹸を用いての手洗い」に分けて、“+”“−”の百分比の Median をとつて行なうならば（表6）の如き結果となり、「手洗い」（A）に於ては各群の間に有意な差は認められないが、「石鹸を用いての手洗い」（B）に於ては、討議群と対照群との間に、2%以下の危険率で有意の差が認められる。

Table 6

寮生全員 (A)

領域	群別	討議群	講義群	対照群
I		5	1	1
II + III + IV		5	9	9

寮生全員 (B)

領域	群別	討議群	講義群	対照群
I		8	4	1
II + III + IV		4	8	12

討議群 > 対照群 P < 0.02

次に、代表者と残りの寮生とを分けて、夫々別々に上述のと同様の仕方で整理してみると、次のようになる。(表7, 8, 9, 10)

Table 7

代表者 (A+B)

領域	群別	討議群	講義群	対照群
I		15	5	2
II + III + IV		7	17	20

討議群 > 講義群 P < 0.01
 討議群 > 対照群 P < 0.001

Table 8

代表者 (A)

領域	群別	討議群	講義群	対照群
I		4	1	1
II + III + IV		6	9	4

Table 9

代表者 (B)

領域	群別	討議群	講義群	対照群
I		9	4	2
II + III + IV		3	8	10

討議群 > 講義群 P < 0.05
 討議群 > 対照群 P < 0.01

Table 10

討議や講義に参加しない寮生 (A+B)

領域	群別	討議群	講義群	対照群
I		10	7	1
II + III + IV		12	15	21

討議群 > 対照群 P < 0.01
 講義群 > 対照群 P < 0.01

Table 11

(A) 討議や講義に参加しない寮生

領域	群別	討議群	講義群	対照群
I		5	0	1
II + III + IV		5	10	9

討議群 > 講義群 P < 0.05

(B)

領域	群別	討議群	講義群	対照群
I		8	5	3
II + III + IV		4	7	9

討議群 > 対照群 P < 0.05

以上のような結果を総合して一応次のようなことが云えると思う。

1. 寮生全員(代表者+残りの寮生)について比較した場合には、討議群の方が講義群よりも「石鹸を用いての手洗い」の実行度の増加が大である。討議群、講義群共に対照群よりは、「石鹸を用いての手洗い」の実行度がより多く増加している。

2. 代表者(討議や講義に参加した寮生)について比較してみると、討議群の方が講義群よりも「石鹸を用いての手洗い」の実行度の増加が大であり、両群の間の差は寮生全員について比較した場合よりも一層大きくなっている。討議群は対照群よりも「石鹸を用いての手洗い」の実行度がより多く増大しているか講義群と対照群との間には顕著な差は見られない。

3. 討議や講義に参加しない寮生について比較してみると、群討議の方が講義群よりも、「手洗い」「石鹸を用いての手洗い」の実行度の増加が大きいようである。このことは、代表者が残りの寮生に対して「手洗い」「石鹸を用いての手洗い」の実行を勧告する仕方が、討議群代表者の方が講義群代表者よりもより一層熱心であったことにもとづくものと解せられる。なお、対照群と比較すれば討議群、講義群共に実行度がより多く増大している。

要 約

食前、用便後等に石鹸を用いての手洗いを励行させようとする場合に、被験者達に対して講義を行つてその必要と効果を力説する方法と、被験者達にこれについて討

議による集団決定を行わせる方法と何れがより有効な教育法であるかを実験的に検討した。

女子大学の寮生に対して (1)石鹼を用いての手洗いをどの程度に実行しているかを事前に調査し, (2)3つの寮の代表者各 10 名ずつに対して各寮別に講義を行い, 4つの寮の代表者 10 名ずつに各寮別に討議による集団決定を行わせ, (3)10 日後に再び, 石鹼を用いての手洗いをどの程度に実行しているかを調査した。

講義, 討議を行う前の調査の結果と, その 10 日後の

調査の結果とを比較してみると, 討議群の方が講義群よりも石鹼を用いての手洗いの実行度の増加がより大であった。討議や講義には直接参加しないで, 自分の寮の代表者達から石鹼を用いての手洗いについて勧告, 伝達を受けた寮生についても, 討議群の方が講義群よりも, その実行度がより多く増加する傾向が見られた。この結果は, 討議に参加した代表者の方が講義群代表者よりも, 残りの寮生に対する勧告, 伝達がより熱心であったことを示すものと考えられる。